村上澄男名誉教授への追悼の辞

名古屋大学名誉教授
東海職業能力開発大学校校長

田中　英一

昭和 47 年卒業（第 31 回）

村上澄男名誉教授のご逝去を悼む

皆様すでにご存じのことと思いますが、村上澄男先生におかれましては 2015 年 10 月 9 日（金）にご逝去なさいました。享年 78 歳でした。先生には 2014 年 11 月 8 日に先生のご自宅を訪れた折にお目にかかったのが最後となりました。その日私の出身講座である材料力学講座の関係者が旧交を温める会があったのですが、先生はお加減が悪いということで欠席されたのです。そこで散会後、都合のつくもの数名でお見舞いに伺ったのです。先生は一見したところまだまだお元気そうで現役時代と変わらぬご様子であり、各人の近況や高速増殖炉「もんじゅ」の事故にまつわる話などに花を咲かせました。それだけに、一年経たない間にこのような訃報に接しましたことは大変意外であり、残念でなりません。

先生は 2000 年 3 月に名古屋大学を定年退官された後、愛知工科大学に 7 年間勤務されました。この間のご様子は後述の自叙伝に詳しく記しておられますが、授業、学生指導、会議、高校訪問を中心とする学生募集活動に大変忙しく、名古屋大学に在職しておられた頃とは大違いで、これまで経験されたことがないような数々のご苦労を重ねられたということです。しかし、そのような状況下でも、先生は研究生活の集大成として、著書「連続体損傷力学　−損傷・破壊解析の連続体力学的方法−、森北出版、出版年 2008 年、本文 324 ページ」をご執筆なさいました。損傷力学に関する我が国最初の書籍であり、よくまとまっていて、今後長く読み継がれる価値ある書物の一つになるのではないかと予感します。私もたびたび参照して、研究に利用させていただいております。

先生が愛知工科大学を退職されたのは 2007 年 3 月のことです。ご退職後は前述の著書の校正をなさるとともに、改訂・増補英語版「Continuum Damage Mechanics - A Continuum Mechanics Approach to the Analysis of Damage and Fracture」の執筆に取りかかっておられます。この著書は、2012 年にドイツの老舗出版社 Springer から刊行されています。400 ページを超える大著です。国際的

に活躍しておられた先生らしく、ご友人である多くの外国人研究者の意見に基づいて改良を重ねられ、日本語版よりも内容が洗練されたものになったと伺っております。この執筆のため、ドイツ、ベルリンの出版社とのやりとりが頻繁にあり、愛知工科大学退職後の 4 年間は、大学在職時代と変わらない忙しい毎日であったとのことです。

著書 Continuum Damage Mechanics 執筆完成後には、自叙伝「わが双葉記 −その春秋と願い−、グッドタイム出版」の執筆に取りかかっておられます。ご長男の要請に応えられたと言うことで、これもほぼ 300 ページに達しようという大作です。ご誕生の地の歴史的説明から始まって、先生のご先祖やご家族のこと、先生ご自身の幼少時代から晩年に至るまでの履歴が、その時々で観たこと、感じたこと、考えたこと、得られた教訓等を交えながら、克明に記録されています。中でも先生が特に多くのページを割いておられるのは、海外の研究者との交流に関することです。研究者としての道が拓かれたのは、ポーランド科学アカデミー基礎工学研究所に滞在する機会を得、そこの所長であられた A. サブチュク教授の知己を得たことであると述懐しておられ、サブチュク先生のことを「人生の最大の恩師」とまで述べておられます。サブチュク先生のご指導の下、新しい研究分野の展望が開け、また海外の数多くの研究者の知己を得ることができて、その後の研究者としての先生のご経歴に多大の好ましい影響をもたらしたということです。このようなチャンスを逃さない積極性と目標に向かって懸命に努力される姿勢が先生のお名前を国際的に知らしめる結果に導き、やがて損傷力学に関する世界的研究者の一人として認められるようになったと拝察されます。

自叙伝は、正確な記録あるいは記憶に基づいて書かれたようで、何十年も前のことがつい昨日のことを思い出すかのように細かく具体的に書かれています。私には到底無理な話で、先生の能力の高さに驚嘆の念を禁じ得ません。また、自叙伝全般にわたって先生の文学的才能が遺憾なく発揮され、まるでプロの小説家が書いたような非常に格調の高い文章で描写されています。

自叙伝の原稿を完成されたのはおそらく亡くなられる前年の 2014 年春であり、出版されたのは亡くなられた年 2015 年ではなかったかと思います。きちんと計画を建て、最後の最後まで全力を投入して、すべてを計画通りに立派にやり遂げられたという印象です。思い起こせば、私がまだ村上先生の下で働いていた頃、先生に、「人生計画を立てて、それを実現できるよう努力しなさい」と助言されたことがありました。私自身は行き当たりばったりの性格で、うまくいっていませんが，今回自叙伝を読ませていただいて，先生は幼少期から人生を終えられるまで、まさにそれを実行されたのだと思いました。

最後になりますが、村上澄男先生は死亡叙勲制度に基づき、瑞宝中綬章を受章されました。大変悲しい状況下ではありますが、長年のご努力とご実績が認められたことに対しまして祝意を表させていただきたいと存じます。ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げて、私の哀悼の辞とさせていただきます。

合掌